

世界を旅する大阪・関西万博

弁護士知財ネット会員
弁護士 川端 さとみ

1 はじめに

私は2025年6月と8月の2回、大阪・関西万博に行ってきました。6月は娘、夫、母の4人で、梅雨の合間の快晴で日差しが強い中、朝10時から夜9時半まで（途中若干熱中症気味になりました。ちなみに80代の母は3時ころ帰りました。）、8月はトワイライトチケットで夕方から、娘とお友達母子と入場しました。

2回の訪問のいずれも抽選に外れ、3日前予約も当日予約もうまくとれませんでした。1度目は10個以上、2度目も6個ほどのパビリオンを回ることができましたし、大屋根リングの壮麗さに感嘆し、美味しい異国料理に舌鼓を打ち、ドローンショーに感動し、万博を満喫することができました。人気のパビリオンにはほとんど入れなかったのが、事前にもっと周到に情報武装しておけばよかったと思う気持ちはありますが、それでも十分に楽しかったです。

本稿では、アラブ諸国やシルクロード（中央アジア）、中東欧諸国を中心にご紹介して、大阪で感じたエキゾチシズムの風をお届けしたいと思います。

●予約なしでも楽しめます！

【1日目の行程】ウズベキスタン→インド→サウジアラビア→スペイン→クウェートのレストランでランチ→コモンズB館→大屋根リング→シンガポール→オマーンのカフェ→熱中症気味になったため団体休憩所でミストを浴びながら休息→気を取り直してトルクメニスタン→ブラジル→オーストリア→UAE→大屋根リングから夕陽鑑賞→マレーシア→マレーシア料理で夕食→ドローンショー→ポーランド

※娘（小6）はシンガポールとポーランドが特によかったそうです。

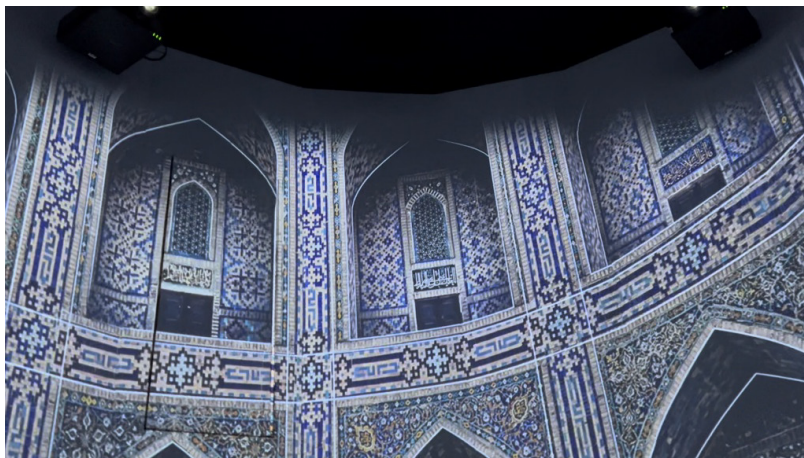
【2日目の行程】ベルギー→バングラデシュ→コモンズC館（ウクライナ、モンテネグロ、スロヴェニア等）→マレーシア料理をテイクアウトして大屋根リングの下で夕食→フランス→フランス館の前の遊び場でひと遊び（大人は休憩）→Better Co-Being→ドローンショー

※シグネチャーパビリオンのBetter Co-Beingは予約が必要ですが午後8時半から自由入場可能になります（ただしパビリオン内の一部だけを開放）。

2 ウズベキスタン館

ウズベキスタン共和国は、中央アジアに位置し、シルクロードの要衝として栄えた、イスラム教が主流の国です。館内に入るとまず、教育、イノベーション、クリーンエネルギーをテーマに、オアシス都市タシケントがどのように発展してきたのか、人口の60%が30歳以下という若い活力に充ちた国家のこれからの発展には教育がカギとなることなどが展示されていました。

中央の円形ホールは壁がスクリーンとなっていて、ぐるり360度全方向から美しいモスクの映像が迫り、まるで自分がウズベキスタンの街にいるかのような錯覚に陥ります。



美しい風景に見とれているうちに、実は床が上昇していて、扉を開けるとそこは光溢れるパビリオン上部の「知識の庭」となっています。知識の庭には大阪近郊の山々で育った杉が使用された柱が幾何学状に立ち並び、“木々”の間に深みのあるオーシャンブルーの陶器のツールが点在していて、とても美しく温かみのある空間でした。



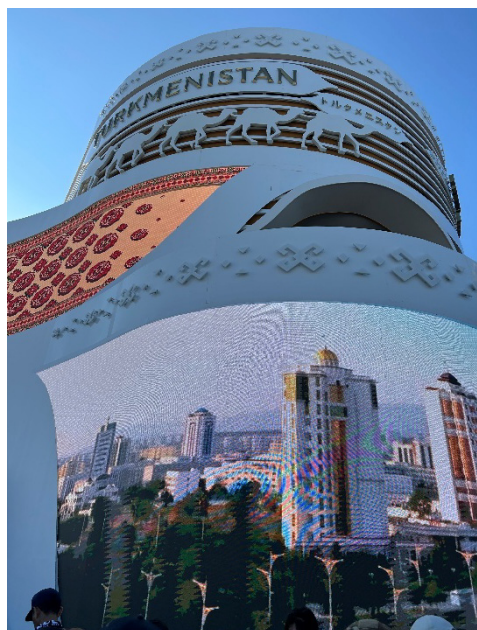
かくれんぼしたくなる雰囲気です。

パビリオン内のショップは、壁一面にターコイズブルーのタイル（なんと1万枚以上だとか）が施されたとても美しい空間で一見の価値あります。



3 トルクメニスタン館

中央アジアのトルクメニスタンのパビリオンはひと際目を引く、白亜の建物です。壁面の巨大なLEDディスプレイには、砂漠のオアシス都市の美しい風景や伝統文化が映し出され、それを見ながら待ち時間を過ごすことができました。特に印象に残ったのは、並んで走る2頭の馬のそれぞれの騎手の後ろに男性が2名立ち乗りし、その2名の肩に男性が乗って日本とトルクメニスタンの旗を掲げていた映像です。馬と絨毯が文化に溶け込んでいる様子がとても印象的でした。



●中東料理、おいしいです！

【クウェート館のレストラン】

スパイスの香り漂う中東料理が好きなので、サウジアラビアかクウェートかUAEで食べるぞと意気込んでいたところ、一番気になっていたサウジアラビアのレストランは居心地が良すぎるのかお客様の滞在時間が長いようで、2時間以上待つこともざらのようでしたので（ネット情報）、泣く泣くあきらめ、比較的並んでおらず、何より屋根があって日差しが遮られて過ごしやすいクウェートのレストランに並ぶことにしました。また、クウェートのレストランは階段を上ったところにあるのですが、階段の下にカフェがあって、階段の脇がカフェのテイクアウト客のための階段状のベンチになっていて、娘と母はカフェでデーツソフトクリームを買い、ベンチに座って食べながら待っていられたこともよかったです。

チキンやラムにトマトベースのソースをつけて食べる料理（レーズンがトッピングされたサフランライス添え）、オクラが入った酸味のあるトマト煮込みやレンティル大豆のスープなど、どれもスパイスのきいたエキゾチックな味付けでありつつ、優しい風味でとても食べやすかったです。保守的な母も大丈夫でした。



4 コモンズB&C館（アフリカ諸国、ウクライナ、モンテネグロ、スロヴェニア）

万博会場には複数の国が共同で展示しているコモンズ館と呼ばれる合同パビリオンもいくつかあります。私はアフリカ各国や中南米中心のB館と中東欧諸国や中米の国が参加しているC館を回りました。

コモンズB館はアフリカの民芸品が多数並び、私は木で彫られた動物たちやお面に心を奪われました。

ウクライナのブースでは「NOT FOR SALE」と書かれたブルーの展示物が並べられており、各展示物のバーコードを読み取るとウクライナの現地映像を見ることができます。

モンテネグロのシアターでは低い天井いっぱいに画像が映し出され、寝転がってモンテネグロの美しい自然の中に没入することができました。

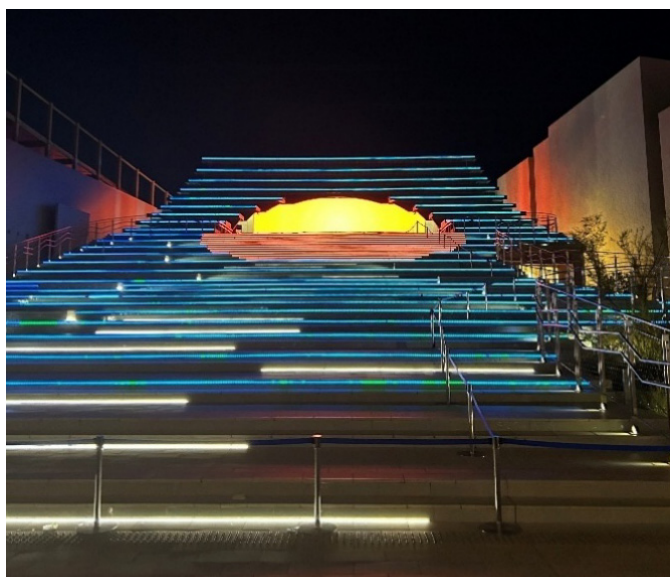
スロヴェニアのブースでは、VRゴーグルを装着しての自転車試乗ができます。子どもたちが

たくさん並んでいたのですが、私はちょっと遠慮して娘だけ体験しましたが、自然の中を走っていく気持ちの良い体験だったそうです。係りの女性は日本語が流暢で、尋ねたらスロヴェニアの大学で日本語を勉強し、数年前に日本にも留学していたそう。遠くスロヴェニアで日本語を勉強してくれている人がいると思うと何だか嬉しくなりました。



5 スペイン館

スペイン館には大階段を上り、「太陽の広場」を経て入場します。スペイン館のテーマは「黒潮」。日本・スペイン両国と黒潮のつながりについての展示などを見ながら深海のような暗いブルーの空間を「泳いで」いくと、まばゆいオレンジ色の洪水の中に「浮上」します。このコントラストがとてもスペインらしいと思いました。



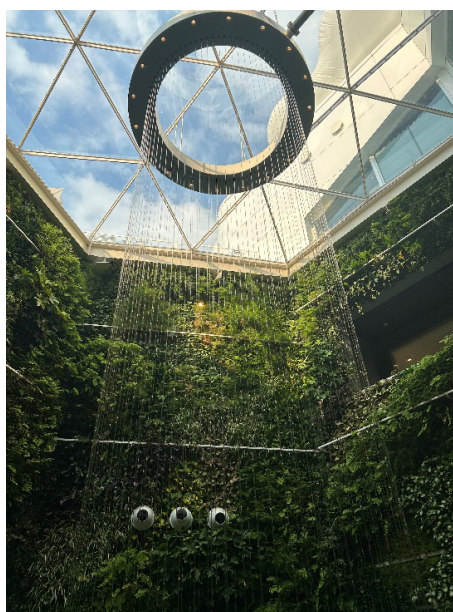
● マレーシア料理もおいしいです！

皆さん、ロティーチャナイと聞いてどんな料理か目に浮かびますか？これ、小麦粉の生地を薄く伸ばして焼いた外はパリッと、中はもちもちのクレープのような食べ物です。万博ではチキンカレーとダル（豆）カレーと一緒に供されて、カレーにつけて頂きました。もう一皿いけそうと思うくらい美味しくて、実は2回目の訪問でも食べに行っていました。1回目は特に待ち時間が長かったのですが、ロティーチャナイの職人さんがイタリアのピザ職人のように生地を空中で回転させるパフォーマンスを疲れ知らずに披露し続けてくれたおかげで楽しく待つことができました。ナシゴレン（焼きめし）も美味しかったです。



6 ベルギー館

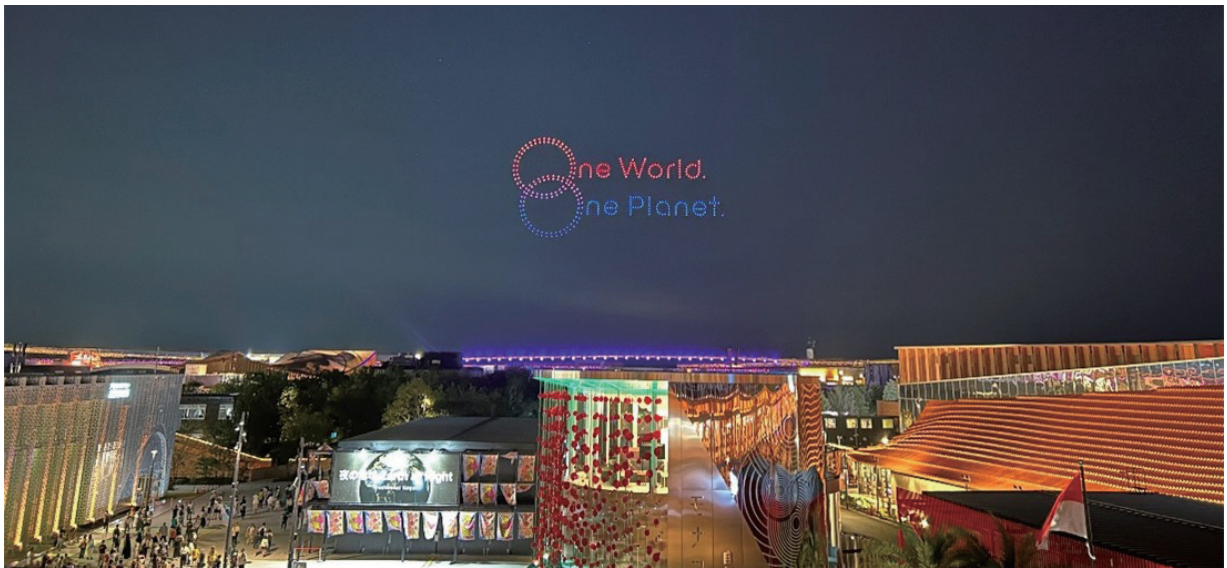
ベルギーパビリオンのコンセプトは「水」。中に入るとすぐ、吹き抜けの空間で巨大な水のインスタレーションが植物とともに迎えてくれ、35度の酷暑に悲鳴をあげていた身体が一気に清涼感で満たされました。



次の部屋からは、ベルギーの医療について、現在から未来に向けての取り組みが紹介されています。ベルギーは世界最大のワクチン製造工場で、世界中の乳幼児の40%にベルギーに関連したワクチンが接種されているという優れた実績を持ち、AIを利用して予防的・予測的・個別化・参加型の革新的な医療技術を開発していることなど、とても興味深く、同行した友人とベルギーについてワッフルとチョコレートとビールのイメージしかなかった己の浅薄さを反省し合いました。このように、知っているつもりの国の知らない側面を知ることができるというのも万博の醍醐味だと思います。

7 さいごに

ANA（全日空）の国際定期便の初就航は1986年でした。当時私は小学生で、全日空に勤務していた父が喜んでいたことをよく覚えています。それから約40年、海外旅行はぐっと身近になったと思っていましたが、2024年末時点の日本人のパスポート保有率はわずか17.3%¹なのだそうです。移動距離が人を成長させる、と最近よく耳にしますが、それは移動により未知との遭遇・体験をするからなのだろうと思います。大阪・関西万博は、日本に居ながらにして、158もの世界各国・地域の多様な文化や最新技術に触れられる貴重な機会であり、一人でも多くの人、特に子どもが大阪・関西万博を訪れて、未知との遭遇を経験し、自分とは異なるものに対する興味や寛容を育むことを祈りつつ、あるいは室谷和彦少年のように自分の進む道について天啓を受けること²を祈りつつ、筆をおきたいと思います。



（脱稿日：令和7年8月19日）

-
- 1 外務省の旅券統計によると、2024年末時点で有効な国内の一般旅券は約2077万冊<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100797931.pdf>
 - 2 本誌2025年8月号60頁（大阪・関西万博見てある記・第7回）参照